

日本アンデス考古学調査50周年記念公開シンポジウム

古代 アンデス文明

過去との対話

1958年、東京大学によって始められたアンデスの考古学調査は、今年で50年を迎えます。これまで1960年代に実施されたペルー北部山地のコシュ遺跡の発掘をはじめ、ワカロマ（1979～1989）、クントウル・ワシ（1988～2002）といった大規模な祭祀センターを長期間にわたって調査し、アンデス文明の母体が形成された形成期（前2500年～紀元前後）の社会発展を追究してきました。今回は、これまでの日本人による調査の歩みを振り返り、成熟し、発展を遂げた現在の研究状況や調査対象社会への成果還元のあるかたを問うシンポジウムを開催します。

出演者

大貫 良夫 | 野外国族博物館/トルワルト館長 加藤 泰建 | 埼玉大学副学長
東京大学名誉教授
関 雄二 | 国立民族学博物館教授 井口 欣也 | 埼玉大学准教授
青柳 正規 | 独立行政法人国立美術館理事長 楠田 枝里子 | 司会者・エッセイスト
国立西洋美術館長

2008.12.13 [土]

14:00-16:30 [開場 13:00]

よみうりホール

東京都千代田区有楽町1-11-1 読売会館7階

先着1000名 / 申し込み不要・参加無料

ancient

古代アンデス文明

日本アンデス考古学調査50周年記念 公開シンポジウム

Program

13:00 開場

14:00-15:20 第1部 アンデスを掘る

進行: 井口 欣也 | 埼玉大学准教授

「アンデス調査50年」

大貫 良夫 野外民族博物館リトルワールド館長
東京大学名誉教授

「クントゥル・ワシでの発見」

加藤 泰建 埼玉大学副学長

「神殿からのメッセージ -パコバンバ遺跡の発掘-」 関 雄二 国立民族学博物館教授

15:20-15:35 休憩

15:35-16:30 第2部 座談「文明との対話」

司会: 加藤 泰建

パネリスト: 大貫 良夫、関 雄二、青柳 正規 | 独立行政法人国立美術館理事長/国立西洋美術館長

楠田 枝里子 | 司会者・エッセイスト

Profile



大貫 良夫 | 野外民族博物館リトルワールド館長
東京大学名誉教授

1937年東京生まれ。著書に『ワカロマ発掘』(共著・英語)、『クントゥル・ワシとセロ・ブランコの発掘』(共著・西語)、『カハマルカ盆地の形成期』(共著・西語)、『アンデスの黄金』、『アンデス・夢の風景』など。



加藤 泰建 | 埼玉大学副学長

1946年東京生まれ。専門はアンデス先史学、文化人類学。著書は『文明の創造力』など。



関 雄二 | 国立民族学博物館教授

1956年東京生まれ。専攻はアンデス考古学、文化人類学。著書に『アンデスの考古学』『古代アンデス 権力の考古学』『アメリカ大陸古代文明事典』など。



井口 欣也 | 埼玉大学准教授

1964年三重県生まれ。専攻はアンデス考古学、文化人類学。論文に「チャビン問題再考」「神殿から国家へ」など。



青柳 正規 | 独立行政法人国立美術館理事長
国立西洋美術館館長

1944年大連生まれ。ギリシア・ローマ考古学者。文学博士。東京大学名誉教授。日本学士院会員。著作に『トリマルキオの饗宴』『ボンベイの遺産』など。



楠田 枝里子 | 司会者・エッセイスト

テレビ番組の司会や、ノンフィクション、エッセイ、絵本など、幅広い創作活動を行っている。著書は『ロマンチック・サイエンス』、『ナスカ砂の王国』など。

会場 よみうりホール Information

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-11-1 読売会館7階 (B2階-6階 ビックカメラ)

TEL:03-3231-0551 FAX:03-3231-4847

- JR 山手線/京浜東北線 有楽町駅 ▶ 国際フォーラム口よりすぐ
- 地下鉄

東京メトロ ●有楽町線 有楽町駅 ▶ D4/D6出口

●日比谷線 日比谷駅 ▶ A2出口より徒歩3分 ●千代田線 日比谷駅 ▶ A2出口より徒歩3分

●丸の内線 銀座駅 ▶ C9出口より徒歩5分 ●銀座線 銀座駅 ▶ C9出口より徒歩5分

都営地下鉄 ●三田線 日比谷駅 ▶ D4/D6出口

※当ホールには専用駐車場はございません。お車でのご来場にはご注意下さい。



みんなく
携帯
サイト



このシンポジウムに関する問い合わせ先

国立民族学博物館 関 雄二 研究室

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

TEL&FAX:06-6878-8252 E-mail sekiken@idc.minpaku.ac.jp